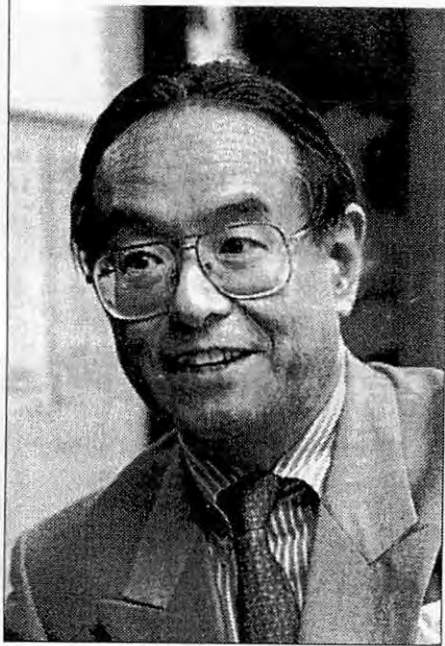


東京外国語大学学長
中嶋 嶺雄氏



なかしま・みねお 国際関係論・現代中国学。「北京列強」で81年サンクトリー学芸賞。著書は「現代中国論」「三つの中国」など。カリフォルニア大学サンディエゴ校の客員教授などを経て95年から現職。64歳。

交流協会台北事務所長が、この事実関係の報告に見られる怒意などが一挙に表出しているといつてもよい。一方、強硬に訪日に反

賛成

市民の「自由」認めよ

かねて懸案事項でもあった台湾の李登輝前総統の訪日をめぐって、日本政府は困惑と不統一の実態を赤裸々に露呈してしまつた。しかも、森喜朗首相のリーダーシップが完全に失われ、自民党總裁選挙が目前に迫っているこの時期に、李登輝氏による査証申請の事実が公表されたために、混乱が極限に達したといつても過言ではない。

森内閣内部の閣僚間の意見の違ひや首相と官房長官とのニュアンスの食い違ひはもとより、総理官邸と外務省の立場の違ひ、外務省内部の外務大臣と副大臣および外務官僚内部の意見の不一致、状況はまさに千々に乱れ

対している中国当局の一方、日本人記者を中心に1時間半にわたって台北郊外で記者会見し、訪日大学の目的は昨年11月の台湾大学付産院での心臓冠

が民主主義の主権国家である限り、いかに中国当局が反対しようとも、本局はいついかなる政治的・外交的配慮の増外にあるべきことはいままでもない。きわめて事務的に淡々と処理するのが本来の在り方であり、李登輝氏

李登輝氏訪日問題

台湾の李登輝前総統の訪日問題をめぐり、日本政府の調整が大詰めを迎えている。査証(ビザ)を発給すべきか否か。日本は中国、台湾とどう向き合うべきなのか。2人の意見を紹介する。

日中共同宣言 田中角 主の不可分の一部」とする。栄首相が72年に訪中し、調印した声明で、日中関係正常化した。中華人民共和国政府が「中国の正式な外交関係は打ち切られた。78年、日中平和友好条約が調印された。

日中共同宣言 98年、江沢民国家主席が訪日した際に合意した。歴史認識に際しては日中共同声明、95年の村山富市首相談話を踏襲し、「中国への侵略によって中国国民

いまや李氏は私人の立場だから問題ない、という論もある。李氏は私人であるが、彼が日本で政治的発言をしようとするとき、彼の訪日によって政治的影響が出ることは否定できない。これ

89年に台湾で李登輝氏に初めて会って以来、同じ年生まれで友人と思つてきた。しかし、中国への配慮、米中軍用機の接触事故といった国際情勢から

第一は外交問題。日本は、日本周辺の平和を一番大事な問題として考えなければならぬ。台湾問題は、危険な要素の一つであることは間違いない。中国に反し、台湾に有利なことをすれば、台

際、自民党の一部の勢力と混同されるを得ない。自らは最後まで外交を結ぶことに反対した。そうした中で、当時の自民党政権は、政治・経済などあらゆる利益を考慮して決断

近隣諸国との関係を悪化させようという意図的な動きがある。自民党は統治能力が低下しており、抑えが効かない。入国を拒否する際の手続きは、きちんとすべきだ。あいまいな言葉で、まかそうとすると、日本への不信感を招く。明確



参議院議員
田 英夫氏

でん・ひでお 社民党・護憲連合所属。参院外交防衛委員。党国際委員長。アジア外交に詳しい。共同通信記者からテレビニュースキャスターを経て、71年に日本社会党から全国区で初当選。5期目。77歳。

したわけであり、この間、中国との信義も大切にしなければならぬ。この時期、李氏はなぜ訪日しようとするのだらうか。李氏は明らかに日中関係を緊張させる方向に動いている。体が悪いのは事実であろうが、極めて意図的なものがある

「経済危機は来るのか?」は、休みました。19日に掲載します。

反対

周辺の緊張招く恐れ

日台関係は、地下水のような形にならざるを得ないが、かなりの水流があるのも事実である。日本政府は、国益はもろんのことだが、アジアの平和のために何が大事なのかを考えなければならぬ。